

**地理歴史科（世界史探究）学習指導案**

1 単元名 地中海周辺と西アジアの帝国

この単元は、「2 内容」の「B 諸地域の歴史的特質の形成」の「(3) 諸地域の歴史的特質」に該当する。

2 単元の目標

- (1) 古代ローマとイラン文明の社会、国家、文化の特徴を理解する。
- (2) 資料を活用し、ローマの支配体制を理解する。
- (3) 古代ローマがなぜ世界帝国となったか、多面的かつ多角的に考察し、他者と協働することによって、自らの考えを深める。
- (4) 古代ローマで培われた理念が、後世の社会に大きな影響を及ぼしていることを理解し、今後の学習に生かす。

3 単元の指導計画(全体 5 時間)

(1) 指導計画

- ・共和政ローマの成立からポエニ戦争とローマ社会の変質 1 時間(本時)
- ・内乱の 1 世紀から帝政を経て平和と繁栄の時代へ 1 時間
- ・地中海に広がるローマ文化とキリスト教の成立 1 時間
- ・ローマ帝国の衰退とイラン文明の社会 1 時間
- ・ローマ帝国の国家体制 1 時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ローマとイラン文明の社会、国家、文化の特徴を理解している。</li> <li>・資料を活用し、ローマの支配体制を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ローマがなぜ世界帝国となったか、多面的、多角的に考察し、他者と協働することによって、自らの考えを深めることができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古代ローマで培われた理念が、後世の社会に大きな影響を及ぼしていることを理解し、今後の学習に生かそうとしている。</li> </ul>

(3) 指導内容及び評価計画 (○…「評価に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

次	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第 1 次 (1)	<p>【学習課題】 &lt;単元を貫く問い&gt; なぜローマは、世界帝国となったのか。</p> <p>【学習課題】 &lt;本時の問い&gt; ローマとアテネでは政治体制にどのような違いがあるか。</p>	<p>【ねらい】 ローマ帝国が繁栄した背景について仮説を立て、考察する。</p> <p>・ローマ共和政への過程をアテネの民主政と比較しながら理解する。</p> <p>・ポエニ戦争の過程と、その後のローマ社会の変容について理解する。</p>	●	○	<p>・ 4 の (3) を参照</p> <p>(B) ローマ共和政の特徴をアテネと比較しながら記述している。</p> <p>(C) 個別に助言する。</p>	ワークシート	
	<p>【学習課題】 &lt;本時の問い&gt; なぜローマは共和政から帝政に移行したのか。</p>						<p>【ねらい】 ローマの政治体制が変化した歴史から、現代における諸課題を解決するための指針を見いだそうとする。</p> <p>・内乱の 1 世紀から地中海</p>

第2次 (1)		統一までの流れを理解する。 ・オクタウィアヌスが始めた帝政は元老院を尊重したものであったという特質を理解する。					
第3次 (1)	<p>【学習課題】 &lt;本時の問い&gt; なぜキリスト教はローマ帝国内で普及したのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地中海に広がるローマの文化とキリスト教の成立</li> </ul>	<p>【ねらい】 キリスト教の広がりや、当時のローマ社会と関連付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料をもとにローマの文化を理解する。</li> <li>キリスト教の成立過程を理解するとともに、ローマ帝国内に普及した要因を考える。</li> </ul>		●		(B) ワークシートに設定されたテーマに沿って記述している。 (C) 個別に助言する。	ワークシート
第4次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ帝国の衰退とイラン文明の社会</li> </ul>	<p>【ねらい】 検証内容からローマ衰退の要因を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ帝国衰退の背景を考察する。</li> <li>イラン系諸王朝の成立を理解する。</li> </ul>	○	●		(B) ワークノートに設定されたテーマに沿って記述している。 (C) ローマが繁栄した背景をもう一度整理させる。	ワークシート
第5次 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ帝国の国家体制</li> </ul>	<p>【ねらい】 グループワークで自他の考えを共有し、学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>テーマが異なる生徒同士でグループをつくり、考えを共有する。</li> <li>話し合った内容を発表する。</li> <li>ワークシートにまとめを記述する。</li> </ul>		○	●	(B) これまでの学習課題をふまえ、自分の考えを表現している。 (C) 個別に助言する。	ワークシート

## 4 本時の指導と評価の計画

## (1) 本時の目標

ア ローマにおける共和政とアテネにおける民主政を比較してその内容や成立過程が異なることを理解する。

イ ローマが長く繁栄した背景とその要因を考察する。

## (2) 本時の展開 (○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入	ローマ帝国とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>ローマ帝国最盛期の地図を確認する。</li> <li>ワークシート Step 1 に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ワークシート Step 1 の記述【思考・判断・表現】</li> <li>・4つのテーマについて、生徒が選択したテーマの数を把握し、生徒数人に選んだテーマとその根拠を発表させる。</li> </ul>

展開 1	共和政ローマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>共和政への過程を理解する。</li> <li>ワークシート Step 2、Step 3 に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アテネの民主政と比較する。</li> </ul>
展開 2	ローマ社会の変質	<ul style="list-style-type: none"> <li>ポエニ戦争を理解する。</li> <li>ポエニ戦争によって変化したローマ社会を理解する。</li> <li>ワークシート Step 2、Step 4 に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>戦争の経過は最小限にとどめる。</li> <li>ローマにもたらされた豊かさとその矛盾を指摘しながら説明する。</li> </ul> ○ワークシート Step 4 の記述【思考・判断・表現】
まとめ	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>ワークシート Step 5 に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習課題のまとめと、次回の授業でローマの混乱から統一へと向かうことについて触れる。</li> </ul>

## (3) 本時の評価規準

ワークシート STEP 4 の評価規準【思考・判断・表現】

・本時の学習内容や周囲の意見を聞いて、自ら立てた仮説の検証や考えを深める。
---------------------------------------

判断基準

「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
-------------------------

・本時の学習内容で得た知識を基に、仮説を検証している。
-----------------------------

「十分満足できる」状況(A)と判断される例
-----------------------

・本時の学習内容で得た知識を基に、仮説を検証しており、さらにどのように自分の考えが変化したかを述べ、単元を貫く問いに対してどのように学習に向かうか示している。
---

「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援
-------------------------------

・自らの仮説を立てることができない。個別に指導する機会を設け、他の生徒が STEP 1 でどのように仮説を立てたか紹介し、改めて仮説の設定を見直すように助言する。
---

## 5 成果と課題

## (1) 成果

集計の結果、仮説を変えた生徒は7名いた。グループワークの様子やワークシートのまとめの記述から、多くの生徒が理解を深めることができたと言える。例えば、多くの生徒は、政治体制が変化した理由に気づき、軍役や税を負担できなければ市民権が付与されないこと、また帝国統治のために市民権の付与が利用されていることに気付いた生徒もいた。

知識の習得と、思考力・判断力・表現力の育成を同時進行で行うことを目指した実践によって、生徒は、知識の習得とあわせて、情報を集め、多面的かつ多角的な考え方を身に付けることができた。そして、単元の終わりに、自ら設定した問いを立てることができた生徒は、自ら学習を調整していると言える。

別の単元においても同様の取組によって、生徒の学びを探究的なものにしていけるといふ手ごたえを感じている。

## (2) 課題

仮説を立てる際に、十分な根拠を示すことができなかった生徒は、グループワークにおいても考えを深めることができなかった。また、ワークシートを提出しなければいけないと分かっただけから、まじめに取り組もうとする生徒や、グループワークで他の生徒の考えを聞き、自分の考えを深めるのではなく、単純に仮説を変えた生徒もおり、できた生徒と大きな差があった。すべての生徒が意欲的に学び、そして主体的に学び取っていくような支援を考え、これからも授業改善に取り組んでいきたい。